

平和の神学は可能か？

京都大学 芦名定道

1 問題設定

1 . 平和を論じる際のアポリア

宗教にとって平和は自明である 議論を要しない
自明なことが自明でない現実 議論の手がかりがつかめない

2 . エラスムスの平和論 (『平和の訴え』)

3 . 議論の枠組み自体をまず一度解体し、問題を立て直すことから議論を始めなければならない。

2 既存の議論の枠組みの脱構築

4 . 「一神教と多神教」: 「一神教 = 好戦的、多神教 = 平和的」

5 . 一神教・キリスト教批判 + キリスト教側の議論

「聖書の宗教は一神教か？」(関根清三 「旧約的一神教の再構築」、『日本の神学』44)

6 . 一神教、多神教は、宗教学的な類型論としては一定の意味を有するが、平和論の基礎にはならない。

7 . 二重の欺瞞:

- ・キリスト教と日本という複合的な歴史的事実の単純化(近代の類型論の無批判な適用)
- ・イデオロギー的価値判断

8 . 「革新と保守」:

9 . 「一神教対多神教」の枠組みの脱構築・解体: 「キリスト教 = 一神教」と「一神教 = 好戦的あるいは平和的」の二重の同一視の解体。 宗教と国家(主権国家・国民国家) の関係を精密に捉えうる神学的宗教学的議論の構築。

3 別の枠組みへ - 平和の神学の構築に向けて -

10 . キリスト教が置かれた現代の歴史的地位の認識から出発すること

- ・多元化和グローバル化の進展
- ・国教会的な議論の枠組み(コンスタンティヌス体制) の崩壊

11 . 多元化和グローバル化についてのコメント

- ・精密な議論の必要性(どのレベル・どの観点からのグローバル化、多元化なのか)
- ・現代になって始めて出現した事態ではない。しかし、現実意識としての新しさ。

12 . キリスト教の国教会的システムの解体の進展と、歴史的地位に追いつけない議論。

13 . 政教分離システムの展開(多様な仕方での) cf. 世俗化

主権国家や国民国家、あるいは民族(民族主義) は、キリスト教にとって何者なのか。

14 . 議論の出発点としての「多元的世界における非国教会的キリスト教」という歴史的現

実認識

15. 「多元的な状況における批判的対話を通じた合意形成」に向けて努力する責任の自覚
16. 「批判的対話」という場合の「批判性」
非国教会的という歴史認識：教会が国家の政策（とくに戦争政策）を正当化する任務から自由になったこと、キリスト教思想を制約してきた、帝国、主権国家、民族という枠組みから自由に発想できること
17. 国家の政策に対する批判機能（キリスト教が平和へ貢献する上で、有利な条件）
草の根レベルから繰り返し生じてくる下からの排他的民族主義に対する批判
18. 「一神教と多神教」という枠組みの解体 = 宗教と国家との癒着・結合を、非国教会という立場から批判的に解体する作業
19. 「批判」「他者との対話」「合意形成」：対話による公共性（共に生きる世界）の積極的な構築への努力、他者と共有可能なヴィジョンの提示
cf. 批判のための批判、自らの前提を自明なものとして他者に押しつけるだけの議論
20. まとめ：「主権国家あるいは民族主義への批判する責任
+ 公共性の構築（下からの）へ参与する責任」
21. 別の枠組みを具体化するには、国家、政治、公共性といった問題を神学のテーマとして取り戻すことが必要になる。そのためには、神学の閉鎖性を克服することが問題になる。基督教会の果たすべき機能？ 過去の神学的思索の再評価。

4 結び - 現代日本の文脈における平和論という視点 -

22. 日本における平和の神学：アジア・東アジアという場で責任を果たす神学、また日本の歴史的状況において批判機能を発揮しかつ他者に対して具体的な提案能力を有する神学でなければならない。
23. 試金石：戦後60年を迎え、状況が急速に保守化・ナショナリズム化の色彩を強める中で、靖国や戦争責任について批判的言論を担いうるということ。同じ思想的立場に立つ者からなるサークル内の討論に閉じないこと。真の愛国とは？

<文献>

エラスムス（箕輪三郎訳）『平和の訴え』岩波文庫

カント（宇都宮芳明訳）『永遠平和のために』岩波文庫

ロナルド・ストーン編（芦名定道他訳）『パウル・ティリッヒ 平和の神学 1938-1965』
新教出版社 2003年

宮田光雄 『平和の思想史的研究』創文社 1978年

安彦一恵・魚住洋一・中岡成文編 『戦争責任と「われわれ」』ナカニシヤ出版 1999年

星川啓慈他 『現代世界と宗教の課題 宗教間対話と公共哲学』蒼天社出版 2005年

宗教的寛容研究会 『宗教と寛容』（報告書）2005年

(<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/christ/tolerantia/index.html>)

William F. Storrar & Andrew R. Morton (eds.), *Public Theology for the 21st Century*,

T & T Clark 2004